本当の「愛」

弓岡 夏鈴［愛媛県］

「自分は他の人とは違う」そんな感情を抱いた経験はありますか。私は、生みの親の顔を知りません。「捨てられた」と気付いた時には、児童施設にいました。

三歳の時、里親に出会いました。病弱だった私は、夜中に高熱を出すことが多かったのですが、目覚めると優しい養父母の顔がそばにあり、安心したのを覚えています。遠足にはおいしいお弁当を作ってくれました。修学旅行の準備の時もかわいい洋服を一緒に買いに行ってくれました。勉強が分からなければ教えてくれ、私が悪いことをして学校に呼ばれれば、仕事を休んででも来てくれました。高校三年生になった今では、愛情たっぷりに育てられてきたのだと実感しています。

しかし、このような穏やかな気持ちで養父母のことを語れるようになるには、時間がかかりました。小学校時代、「親と全然顔が似てないね」と友人に何気なく言われた言葉でひどく傷付きました。公文書を取ると親と名字が違うので、友人に気付かれるのが嫌で隠していました。そんなこともあり、理由もなく無視したり、反抗したり、困らせるばかりの時期もありました。「本当の親じゃないけん」自分が一番傷付けられた言葉を平気で言ってしまったこともありました。そんな時、二人は悲しそうな表情で黙って私の顔を見ていました。中学生の頃、友達関係で悩んで学校に行きたくないと言った時、「一人じゃないけん、私らがおる」と言って泣きながら私を抱きしめてくれたのを思い出します。

私は、現在警察官を志望しています。少年課で働き、私のような境遇の子の保護や非行に走った子の更生に関わることで社会に役立ちたいです。里親に育てられたからといって同情されたくはありません。むしろ、本当の親以上に愛情を注ぎ、懸命に育ててくれているこの養父母に出会えて良かった、この幸運をチャンスに変えて今度は恩返しをしたいと今は思っています。